

令和7年度 九州老人福祉施設職員研究大会(鹿児島大会) 開催要綱

1 大会テーマ 「かごしまから拡散、介護現場のクオリティアップ」
～ #利用者主体 #生き生き #働く ～

2 趣旨 少子高齢化と人口減少が進む我が国において、感染症拡大を契機としたデジタル化が進み、様々な分野がDX推進に取り組み、働き方の変容や業務の効率化、生産性の向上など社会に徐々に浸透しています。新しいデジタル技術を活用することで今後も新しい価値を生み出し、社会全体の包括的な変革に大きな影響を及ぼそうとしています。そのような中、我々介護業界においても生き生きと働ける職場となるよう介護現場の生産性向上を図りつつ、これからも変わる事のない尊厳へ配慮した利用者主体のケアを継続し、地域の社会資源としての責務を全うしなくてはなりません。
そこで、介護現場を取り巻く最新情報と日々の研究の課題や成果を九州全体で共有し、介護現場のクオリティアップにつなげることを目的として本大会を開催いたします。

3 主催 九州社会福祉協議会連合会 九社連老人福祉施設協議会
鹿児島県社会福祉協議会 鹿児島県老人福祉施設協議会

4 共催 公益社団法人全国老人福祉施設協議会

5 後援 鹿児島県 鹿児島市

6 期日 令和7年9月25日(木)～26日(金)

7 会場 (1)全大会/1日目 川商ホール(鹿児島市与次郎 2 丁目 3-1)
(2)研究部会/2日目 鹿児島サンロイヤルホテル(鹿児島市与次郎 1 丁目-8-10)
ホテルウェルビューかごしま(鹿児島市与次郎 2 丁目-4-25)

8 定員 1,040名

9 参加対象 (1)老人福祉施設、通所介護事業所の役職員
(2)県地区町村行政機関、県市町村社会福祉協議会の職員
(3)その他の関係者(訪問介護事業所、グループホーム、小規模多機能居宅介護支援事業所 等)

10 日程

		12:00	13:00	13:40	14:10	:40	:55	16:25	17:25	:30
全体会 9/25(木)	受付	式典 40分	基調講演 30分	行政説明 30分	休憩	記念講演 I 90分	記念講演 II 60分	次期開催 県挨拶		
		8:30	9:15	12:00						
研究部会 9/26(金)		受付・ 運営委 員会	研究部会/7 会場 165分							

▼1日目 / 9月25日(木) 式典・全大会 (川商ホール 第1ホール)

日 程	開始時間	詳 細
受 付	12:00	12:20～ オープニングアトラクション(薩摩偉人 維新伝心隊)
開会式典	13:00	開会のことば・主催者挨拶・来賓挨拶紹介・表彰授与式
基調講演	13:40	公益社団法人全国老人福祉施設協議会
行政説明	14:10	厚生労働省
休 憩	14:40	
記念講演Ⅰ	14:55	「結局、どうしたら伝わるのか？ 脳科学が導き出した本当に伝わるコツ」(仮題) T&R Self-Image Design LLC 脳科学者 西剛志(にしたけゆき) 氏
記念講演Ⅱ	16:25	「芸人ならではの利用者さんとのコミュニケーションの取り方」(仮題) 吉本興業株式会社 漫才コンビ レギュラー
次期開催県挨拶	17:25	熊本県老人福祉施設協議会



【記念講演Ⅰ講師「脳科学者 西剛志 氏」プロフィール】

世界的に成功している人たちの脳科学的なノウハウや、才能を引き出す方法を提供するサービスを展開し、企業から教育者、高齢者、主婦など含めてこれまで3万人以上に講演会を提供。テレビ朝日系『羽鳥慎一モーニングショー』や日テレ系『カズレーザーと学ぶ』など各種メディア出演も多数。80歳でも脳が老化しない人がやっていることなど11冊の著書は海外含めてシリーズ累計38万部突破。

脳科学の最新研究から明らかになった「あなたが見ている世界とあなた以外が見ている世界は違う」脳のバイアスの実態。どんなに親しい間柄でも見ている世界は違うのだから分かり合うことなど幻想にすぎない。

【記念講演Ⅱ講師「漫才コンビ レギュラー」プロフィール】

リズムネタ「あるある探検隊」で一躍ブレイク。現在は営業先や劇場を中心に活動する実力派漫才コンビ。介護職員初任者研修(旧ヘルパー2級)やレクリエーション介護士1級の介護関連資格のほか、健康ウォーキング指導士の資格も所有し、福祉イベント等にも参加。

人を楽しませるネタを活用して利用者からスタッフまで楽しく過ごすレクリエーション活動など行い、お笑い芸人ならではのスタンスで「よしもとお笑い介護ブ！」を発足。介護の世界を知ってもらうための地域と介護の橋渡し役存在。



▼2日目 / 9月26日(金) 研究部会(鹿児島サンロイヤルホテル・ホテルウェルビューかごしま7会場)

日 程	開始時間	詳 細
受 付	8:30	受付(8:35～運営委員会/運営関係者・発表者のみ)
研究部会	9:15	7会場各6名事例発表
審 査	11:35	7会場各優秀賞1名・奨励賞各1名選出
閉 会	12:00	

研究部会名	会場名	テーマ
第1研究部会	鹿児島サンロイヤルホテル	「科学的介護の実現と推進」
第2研究部会	鹿児島サンロイヤルホテル	「利用者主体の高品質なサービスの追求」
第3研究部会	鹿児島サンロイヤルホテル	「社会福祉法人・施設から地域への発信」

研究部会名	会場名	テーマ
第4研究部会	ホテルウェルビューかごしま	「人材確保・定着と働きやすい職場づくりの実践」
第5研究部会	ホテルウェルビューかごしま	「在宅サービスの実践と課題」
第6研究部会	ホテルウェルビューかごしま	「軽費・ケアハウスの実践と課題」
第7研究部会	鹿児島サンロイヤルホテル	「養護老人ホームの実践と課題」

※ 研究部会会場は参加申込状況により変更する場合がありますので予めご了承ください。

※ 各研究部会の趣旨・ポイント等詳細については5ページから11ページをご覧ください。

- 11 大会運営 (1)大会は、全体会及び研究部会をもって構成します。
(2)全体会は、式典・基調講演・行政説明・記念講演で構成します。
(3)研究部会には、運営委員長・運営委員・座長・発表者を置きます。

- 12 研究発表 (1)研究発表は、各県から推薦するものとします。
(2)発表時間は1人15分程度とします。
(3)各研究部会において会場に参加されている方の投票(12ページ参照)により特に優秀な発表者を選出し表彰します。
※ 発表者は事前に各県・市老協から配布される発表要領をご確認ください。

- 13 表彰 別に定められた顕彰規程により対象者に九州社会福祉協議会連合会会長表彰状又は公益社団法人全国老人福祉施設協議会感謝状を贈呈します。
(1)各施設においては、九州社会福祉協議会連合会顕彰規程により該当者が在職する場合、誤字・脱字、勤続年数の算定等を確認したうえで、6月30日(月)までに各県・市老協事務局へ表彰推薦書を提出してください。
(2)各県・市老協事務局は、各県社協と調整のうえ、被表彰者の推薦を7月7日(月)までに大会事務局(鹿児島県老協事務局)へ提出してください。

- 14 参加費 参加申し込み後に、アローツーリスト(株)からメールが配信されますので、その内容に基づき、期日までにお支払いください。お支払いのない参加は無効といたします。申し込み後の参加費は返金いたしません。

研究部会名	会員	非会員
会場参加(オンデマンド配信込み)	1人 13,750円 (うち消費税10%1,250円)	1人 19,250円 (うち消費税10%1,750円)

- ※ 会員とは、九社連老人福祉施設協議会の正会員及び準会員とします。
※ 会員施設に属する法人内のグループホーム、小規模多機能型施設、訪問介護事業所については、1人13,750円(内消費税(10%)1,250円)とします。
※ 大会終了1か月後以降を目途に視聴期限付きでオンデマンド配信を行います。オープニングアトラクション・式典・記念講演Ⅰ・記念講演Ⅱ・次期開催県挨拶・機器展示場はオンデマンド配信の対象となりません。
※ 事前に参加券等を配信するのでダウンロードのうえ当日ご持参ください。受付にて大会当日資料と引き換えます。(欠席の場合、資料の請求があれば、後日大会資料を送付します。)
※ 気象状況等により開催方法が変更となる場合がございます。

- 15 申し込み方法 今大会の参加・宿泊の斡旋並びに取りまとめ等については、アローツーリスト(株)が行います。各参加施設等は、別添「参加・宿泊等の御案内」を確認のうえ、参加申込画面(下記参照)から7月7日(月)までにお申し込みください。

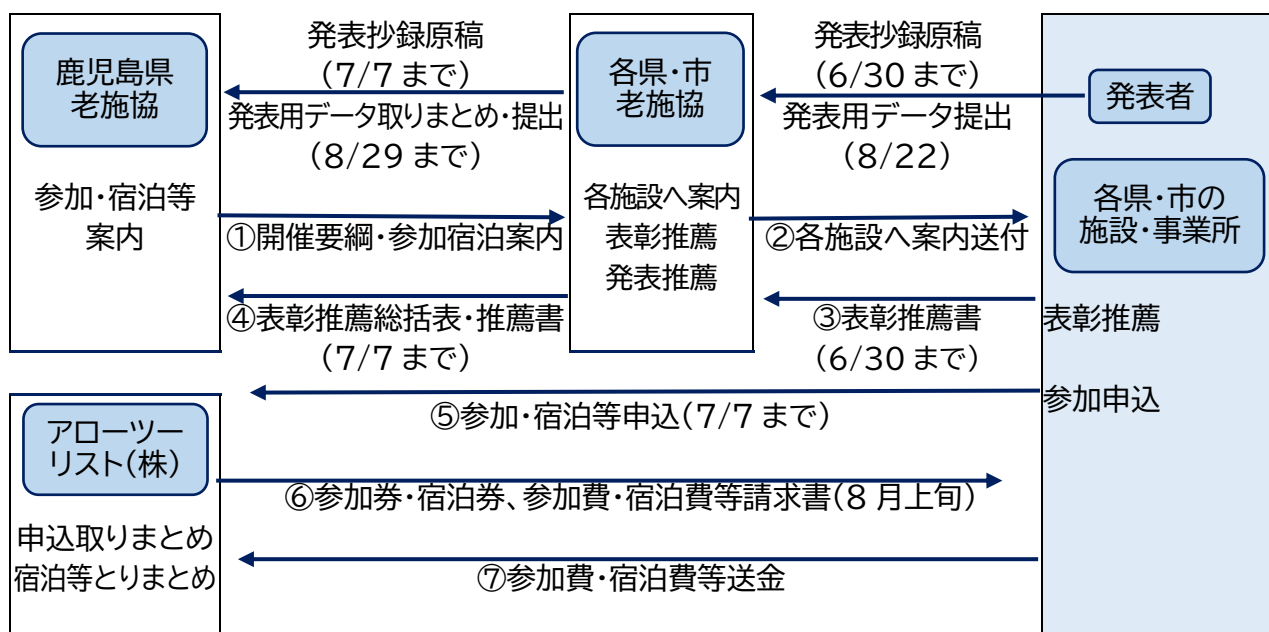
【会員・非会員・お支払方法により参加申し込み専用サイトが異なります。】

クレジットカード・コンビニ振込、ペイジー決済(収納サービス)でのお支払いを希望される場合	会員	https://www.zenryo-marupay.com/marupay/event/select-item/E2505010013?shop_code=000113&key=umNVHc3kdu
	非会員	https://www.zenryo-marupay.com/marupay/event/select-item/E2505010015?shop_code=000113&key=4D3817Jt3a
銀行振り込みでのお支払いを希望される場合	会員 非会員	https://forms.gle/kJtVDgDnoGWgMpRs9

※ 希望研究部会は、先着順での受付となります。各研究部会の定員になり次第締め切りますのでお早めにお申し込みください。

※ 大会期間中は鹿児島中央駅⇄天文館地区⇄与次郎に有料のシャトルバスを運行します。利用希望者は参加申込と併せて必ず事前にお申し込みください。(先着順 キャンセル不可)

【申込み等の主な流れ】



16 個人情報の取扱い

本大会での個人情報の取り扱いについては、大会運営に関する業務以外の目的には使用しないものといたします。また、「施設名」「氏名」「職種名」「参加研究部会」「役割」を掲載した参加者名簿を作成し、大会資料として配布いたします。

動画に関する留意事	<p>下記の行為は、主催者及び講師の知的財産権、肖像権、プライバシーの権利等を侵害する行為となりますので、固く禁止いたします。</p> <p>(1) 配信期間において、参加申込施設以外の方との視聴・画面共有を行うこと。</p> <p>(2) URL を参加申込施設以外の方に提供すること。</p> <p>(3) 不特定多数の方が閲覧できるブログや SNS(X、Facebook 等)に URL を掲載すること。</p> <p>(4) 配信された内容を録画等して、動画共有サイト等へアップロードすること。</p>
-----------	---

17 問合せ先

大会事務局	参加・宿泊等取りまとめに関すること
一般社団法人鹿児島県老人福祉施設協議会 〒890-8517 鹿児島市鴨池新町 1-7 県社会福祉センター内 TEL;099-297-5611 FAX;099-250-9358	アローツーリスト株式会社 〒892-0815 鹿児島市易居町 2-9 インカムビル 2 階 TEL;099-226-6000 FAX;099-226-7031

第1研究部会	科学的介護の実現と推進
<p>〔趣旨〕</p> <p>利用者の状態やケア内容など全国規模で蓄積する大規模なデータベースである科学的介護情報システム(LIFE)運用開始から5年が経過し、データに基づくPDCAサイクル活用の好循環を通じた科学的介護の取り組みが推進されています。さらに、リハビリの効果を高めることは栄養状態に大きく影響し、栄養状態改善のためには「口腔機能の維持」が重要であることが指摘され、心身機能の効果的な向上のためリハビリ・機能訓練、口腔管理、栄養管理の一体提供の推進が強化されました。根拠に基づいたサービス提供のため、各職種が役割を分担しつつ専門性を尊重した連携を図り、情報共有を行いながらチームでケアを実践する必要があります。</p> <p>本研究部会は、一人一人の状態に応じた自立支援や重度化防止を目指し、職種間連携やエビデンスに基づいた質の高い介護の実践と課題について研究します。</p>	
<p>〔ポイント〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学的介護情報システム(LIFE)の利活用 ・サービスの質の向上と福祉 ・褥瘡マネジメントの取組 ・栄養ケアマネジメントの推進と実践 等 ・記録活用とアウトカム評価方法 ・介護機器の活用 ・ADL 改善や QOL 向上に向けた取組 ・口腔ケアの取組 ・機能訓練(フレイル等予防)の取組 	
<p>〔研究発表者〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 北九州市 特別養護老人ホームライフポート若松 「褥瘡について」(仮題) ② 福岡市 特別養護老人ホームさんすまいる唐原 「科学的根拠に基づいて、ケアの標準化を行い、誤嚥予防につなげる取り組み」(仮題) ③ 佐賀県 特別養護老人ホーム春庵 「『ノーリフティング』の取り組み」(仮題) ④ 福岡県 調整中 「調整中」 ⑤ 鹿児島県 特別養護老人ホーム青山荘 「『できる』ADL から『している』ADL へ」 ～LIFE フィードバックから新たなアウトカム指標の活用～(仮題) ⑥ 長崎県 特別養護老人ホーム只狩荘 「私の人生これまでか?!」～それぞれの想い～ 	

第2研究部会	利用者主体の高品質なサービスの追求
<p>〔趣旨〕</p> <p>介護保険制度の理念にある「利用者が尊厳を保持し、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるようにすること」を実現するため、介護現場においては利用者主体の「生活の質」の向上を試みています。一方、高齢化重度化は着実に進行し、多様な価値観を持つ高齢者層のニーズに合わせたサービスをこれまでの労働力で提供するため、医療アクセスをはじめ多職種が連携を図り、職員と利用者の双方にとってメリットとなる業務改善を通じてケア内容の充実を図る必要性があります。</p> <p>本研究部会では、利用者主体のケア実現のために多様な専門性を発揮しながら連携を図るための課題を探りつつ、高品質なサービスを提供するための取り組みや実践について研究します。</p>	
<p>〔ポイント〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手順書等による作業の標準化 ・認知症のケア実践 ・ノーリフティングケアの取組 ・利用者の要望、状態に合わせた排せつや入浴業務 ・調理法や調理業務の工夫 ・楽しい、ユニークな食事への挑戦 ・機能訓練、アクティブの取組 ・尊厳、虐待防止 ・医療ニーズへの取組 ・感染症における課題と今後の取組 ・看取り介護 ・多職種連携による施設ケアの取組 ・医療ニーズにおける家族との連携 等 	
<p>〔研究発表者〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 福岡市 特別養護老人ホームラ・ポール有田 「排泄支援から考える『その人らしい暮らしの継続』」 ② 佐賀県 デイサービスセンターサンテ 「通所介護における リハビリテーション・機能訓練・栄養・口腔の一体的取り組みについて」 ～遅ればせながらの挑戦～(仮題) ③ 長崎県 特別養護老人ホーム椿ヶ丘荘 「急変時の対応」～介護力アップして、みんな Happy! ～ ④ 沖縄県 特別養護老人ホーム北斗園 「本人意思に寄り添った多職種連携アプローチ」～「わしも皆と同じものが食べたい」～ ⑤ 熊本県 指定介護老人福祉施設るり苑 「心を動かし、意欲を引き出す『化粧療法』」～自分らしく生きるための認知症ケア～ ⑥ 福岡県 特別養護老人ホーム芳樹園 「誤薬事故をなくす取り組みについて」(仮題) 	

第3研究部会	社会福祉法人・施設から地域への発信
<p>〔趣旨〕</p> <p>社会福祉法人は社会福祉事業の実施を目的とする公益性の高い非営利法人で、地域の福祉ニーズ等を踏まえながら各法人が創意工夫をこらした多様な「地域における公益的な取組」を推進しています。また、少子高齢化や核家族化、高齢者世帯の増加等によって地域社会を支える組織や人材の不足が深刻化するなか、孤独死、虐待、認知症高齢者の行方不明、消費者被害、見守りが必要な人の増加など、地域の福祉課題は増加傾向にあります。こういった課題解決のため協働することが、人々のつながりの強化、地域の活性化につながることを踏まえ、地域における支え合いの担い手の一員としての役割や地域に根差した施設づくりを常に考察し続ける必要があります。</p> <p>本研究部会では、高齢者福祉の拠点機能を担う社会資源として地域社会に求められる法人・施設の役割や、その実践等について研究します。</p>	
<p>〔ポイント〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SDGs 推進の取組 ・地域共生社会の実現のための取組 ・災害時の地域支援活動 ・社会福祉法人の経営戦略 ・法人経営の透明性の確保並びに合理化、適正化の取組 ・小規模法人のネットワーク化による経営効率化や社会福祉法人の連携活動 等 <ul style="list-style-type: none"> ・既存の社会資源の地域住民に向けた活用 ・地域行政と福祉関係者との地域活性化に向けた連携 ・地域公益活動の取組 ・身寄りのない方、生活困窮者支援への取組 ・施設の社会化、地域化の取組 	
<p>〔研究発表者〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 佐賀県 居宅介護支援センターわいわい 「私たちが目指す地域共生社会」(仮題) ② 長崎県 地域密着型特別養護老人ホームアスカ 「小神アスカ福祉会の高齢者等見守りネットワーク活動」 ～地域で安心して楽しく暮らすことができるように～ ③ 熊本県 特別養護老人ホームノットホーム 「福祉避難所開設ゲーム(SgSE)の開発」～平時から備える災害対応の未来へ～ ④ 大分県 デイサービスセンター玉津座銀鈴堂 「高齢者の生きがいづくりと町づくり」 ⑤ 福岡市 グループホームケアスタ福岡 「お給料もらえるの！」～認知症当事者の方の就労を通して～ ⑥ 沖縄県 特別養護老人ホーム大名 「社会福祉法人・施設の地域貢献と公益的取り組み」～食・栄養を通じた地域との関わり～(仮題) 	

第4研究部会	人材確保・定着と働きやすい職場づくりの実践
<p>〔趣旨〕</p> <p>近年、少子高齢化により人口は減少し続け労働人口の減少による社会の人手不足が広がっている中、介護分野は特に不足感が深刻化している産業として国と自治体が連携し、様々な介護人材確保対策を講じています。介護現場においても、より適切で効果的な介護の魅力発信や外国人労働者の活用、福利厚生・人事考課・職員教育の充実、効率化を図るための生産性向上など採用・定着の促進が課題となっており、これまでも熟慮を重ね様々な対策を試みています。</p> <p>本研究部会では、介護人材確保について焦点を絞り「利用者ファーストのための職員ファースト」の実践や人材の安定を図るための取り組みについて研究します。</p>	
<p>〔ポイント〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・効果的な人材確保、人材育成の取組 ・メンタルヘルスケア対策 ・ハラスメント対策 ・ライフワークバランス ・介護の魅力発信やイメージ改善 ・自職場課題分析 ・職場内の円滑なコミュニケーション ・外国人労働者への教育体制、研修体制 ・福利厚生 ・SNSを使った求人の効果的活用法 ・人事考課 ・キャリアアップ ・フレックス勤務 ・AI、ICT、介護ロボット導入のノウハウと費用対効果 ・ICT、介護ロボット（補助金等）活用の取組 等 	
<p>〔研究発表者〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 長崎県 特別養護老人ホームあけぼの荘 「働きやすい職場づくり奮闘記」(仮題) ② 熊本県 特別養護老人ホームリデルホーム黒髪 「排泄介助に特化した働き方の実証実験」 ③ 鹿児島県 特別養護老人ホーム奄美佳南園 「担い手が減る中 これからの介護サービスを続けるために」(仮題) ④ 宮崎県 特別養護老人ホームシルバースターうなまの里 「過疎地域における今後の特養の展開」 ～ICT活用等でスタッフの定着を！まずは現職を大切に！！～(仮題) ⑤ 沖縄県 特別養護老人ホームしらゆりの園 「外国人労働者を採用し、働きやすい環境を整備した事例」(仮題) ⑥ 大分県 特別養護老人ホームしおさい 「日本で働きたい！！」 	

第5研究部会	在宅サービスの実践と課題
<p>〔趣旨〕</p> <p>高齢者人口の増加に伴い在宅生活を支援する在宅サービスの需要は高まり、地域包括ケアの推進により自立支援と重度化防止の取り組みが重要視されています。同時に、働きやすい職場環境の整備とサービスの効率化が推進され、介護保険制度の持続可能性を確保するための対策が図られています。在宅サービスは選ばれる時代となり、自事業所の長や付加価値を明確に把握したうえで利用者や職員の声を聞きサービスの改善点や強みを見極めつつ、利用者が持つ多様な課題を解決して、質の高い介護福祉サービスを提供することが求められます。一方、厳しい経営環境や人手不足に直面している事業所も増加しており、利用者の自己負担額増によるサービスの利用減など稼働率の低下も深刻化しています。</p> <p>本研究部会では、在宅サービスの継続性、地域単位でのサービス提供システムの在り方、科学的介護、効果的・効率的な支援、自立支援・重度化防止等の在宅サービスの実践など諸課題について研究します。</p>	
<p>〔ポイント〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防サービスの取組 ・ICT を活用した情報の共有 ・認知症ケアの取組 ・機能訓練(フレイル対応等)の取組 ・在宅サービスの多様な働き方の工夫 ・事業継続(自然災害・感染症) ・科学的介護(LIFE・IT)及び各種加算算定への取組 ・関係機関との連携、事業所間の連携 ・保険外サービスの取組 等 	
<p>〔研究発表者〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 熊本県 指定通所介護事業所白川の里 「認知症に特化したサテライト的デイサービスの取り組み」 ～広域型通所介護における認知症特化型サービスについて～ ② 大分県 デイサービスセンター鈴鳴荘 「もう一度自分で歩きたい！」 ③ 宮崎県 幸楽荘デイサービスセンター 「在宅生活の維持を目指して」(仮題) ④ 沖縄県 福寿園デイサービスセンター 「デイサービスにおける業務改善と業務効率化」～減らせ残業！！増やそう、笑顔とゆとり！～ ⑤ 福岡県 特別養護老人ホーム本陣園 「歩行訓練機能付きのリフトを用いた機能訓練の実施で、在宅生活の維持につなげる」(仮題) ⑥ 北九州市 こくらの郷デイサービスセンター 「地域状況の中でこくらの郷デイサービスが抱える課題を考える」(仮題) 	

第6研究部会	軽費・ケアハウスの実践と課題
<p>〔趣旨〕</p> <p>軽費老人ホームは、居宅において生活することが困難な高齢者に食事その他日常生活上必要な便宜を提供する施設として昭和38年に創設され、現在は将来介護が必要になっても介護保険サービスを利用することで住み続けることができる「利用者の実情に即した多様な住まい」となっています。また、入居者の重度化対応や虐待・貧困問題、保証人・身元引受人がいないケースなどニーズは多様化し、物価変動が反映されない財源問題や施設の老朽化問題に加え、多様な高齢者向け居宅系サービスが普及し民間事業者の事業拡大による競争の激化から入居率の低下を招いています。</p> <p>本研究部会では、これまでも地域活動や地域支援に取り組み、自立を支援する施設として歴史ある軽費老人ホーム・ケアハウスの現状を踏まえ、地域共生社会の推進の役割を果たすための将来像について議論を深め、軽費老人ホーム・ケアハウスの役割と実践並びに課題について研究します。</p>	
<p>〔ポイント〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軽費老人ホーム・ケアハウスの現状と課題 ・ケアハウスにおける特定施設の課題 ・介護保険以外の生活支援サービスの取組 ・地域との交流・連携・情報発信 ・医療との連携 ・選ばれる施設へ向けた取組 ・介護予防、認知症予防、住まいの多様性 ・軽費、ケアハウスの広報のあり方 ・災害、感染症(BCP)への対応等 ・地域共生社会の実現に向けた取組 等 	
<p>〔研究発表者〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 大分県 ケアハウス恵幸園 「謝罪しない勇気」 ② 宮崎県 ケアハウス都城 「コロナ禍後における外出への心境の変化について」(仮題) ③ 鹿児島県 軽費老人ホーム鶴水園 「行き場がないと思わせない施設づくりについて」～たとえ、認知症を患っても…～(仮題) ④ 福岡県 調整中 「調整中」 ⑤ 北九州市 軽費老人ホームかおる苑 「施設に入ってから的人生」(仮題) ⑥ 佐賀県 ケアハウスすみれ園 「いつまでも元気な生活を」～想いを形にするために～ 	

第7研究部会	養護老人ホームの実践と課題
<p>〔趣旨〕</p> <p>養護老人ホームは、戦前戦後の先駆的な社会福祉事業の取り組みの中で措置施設としての役割を社会的に担い、現在もその流れをくみ地域の中の社会資源の一つとして自立を支える拠点機能の役割を期待されています。近年では高齢化に伴う重度化対応・認知症対応をはじめ、障害や精神疾患等を持つ入所者も増加傾向で従来の見守り支援のほか、介護保険・障害福祉サービスの提供を行う必要性が高まり、刑務所等矯正施設退所者、ホームレス、DV、依存症や被災による避難など、多様化・複雑化するニーズを抱えた高齢者の住まいとして、本来のセーフティーネットの役割が期待されています。一方、措置費の一般財源化、様々なニーズに対応するための配置基準上のマンパワー不足や職員資質向上のための環境不足、自治体によるローカルルールや措置控え問題などソーシャルワーク機能を発揮するために困難な課題も山積しています。</p> <p>本研究部会では、そのような養護老人ホームの現状の課題を踏まえ、今後の将来像や養護老人ホームとしての良質なサービスをどのように提供していくべきか研究します。</p>	
<p>〔ポイント〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活困窮、精神疾患、認知症高齢者、社会復帰者(刑務所等出所者)等の受入れ ・老人福祉法における養護老人ホームの役割 ・入所者の高齢化、重度化への対応 ・良質なサービス提供の取組 ・福祉人材の確保、育成、定着に向けた取組 ・養護待機者の掘り起こしのための取組 ・養護老人ホームにおける契約入所 ・特定施設の現状 ・地域共生社会への取組 ・感染症対策等 ・災害時の地域との連携 等 	
<p>〔研究発表者〕</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 鹿児島県 養護老人ホーム寿光園 「地域と共に」～民間移管より15年～(仮題) ② 宮崎県 養護老人ホーム松の寮 「温かい支援、そこに理念の実現を目指して」(仮題) ③ 福岡県 養護老人ホーム篠原の里 「篠原の里における『地域公益的活動』への取組」～ホームレス支援、認定就労訓練など～(仮題) ④ 北九州市 養護老人ホーム清風園 「多様化する入所者への対応」(仮題) ⑤ 佐賀県 養護老人ホーム伊万里向陽園 「契約入所始めました」～理想と現実の間で・・・～(仮題) ⑥ 福岡市 聴覚・言語障害者養護老人ホーム田尻苑 「聴覚障害者の入院と多職種連携」 	

※研究発表は各研究部会会場参加者の投票により審査いたします。以下審査票は、当日配布いたしますのでご参照ください。(「研究発表に関する審査結果投票の方法」も当日配布いたします。)

令和7年度九州老人福祉施設職員研究大会（鹿児島大会）研究部会

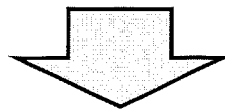
第〇研究発表に関する審査基準・審査票

【会場参加者配布（記入）用】


SAMPLE

6組の発表について、下表の基準に沿って太枠内に点数を記入し、発表者ごとの合計得点を計算してください。

審査項目（3点基準/レベル）		配点	研究部会 発表番号					
			1番	2番	3番	4番	5番	6番
企画力 (発表遺残 の取組の評 価)	高齢者福祉・介護の真のニーズを捉えた取り組みで、理論や根拠に基づいた科学的介護の実践や介護の標準化に資する内容、若しくは数量・数値・言語によって視覚的に把握できる内容であった。	5						
	抄録原稿に、取り組みと関係の深いキーワード（3つ）を効果的に記載し、本文の内容に鑑みて適切だった。	5						
	抄録原稿は、必要な情報を網羅し、かつ、分かりやすい内容であった。	5						
発表力 (発表自 体の評価)	発表内容や声の大きさ、速さなどが適切で、ポイントを押さえた説明をしていた。	5						
	発表資料(スライド)は、図表、イラスト、箇条書きなどを効果的に活用し、見やすいものであった。	5						
	抄録原稿と発表内容が統一されており、補完的なものとなっていた。	5						
応用力 (視聴者に 関する貢献 性の評価)	視聴者に自分の施設で実践したいと思わせるような内容であった。	5						
	施設・事業所の規模等に左右されずに、発表内容を実践することが可能である。	5						
発表の独創 性、先見性	他に例を見ないオリジナリティが認められた。	5						
	高齢者福祉・介護分野の将来を見通した内容であった。	5						
合計得点		50						



審査結果投票ページ

 あなたが審査した6組の発表者のうち、最も合計得点の高かった発表者を「審査結果発表ページ」から投票してください。合計得点が同点の場合、あなたが一番優秀と判断した発表者1組を投票してください。(公平性の担保の観点から、投票できるのはお一人様1回のみです。)

当研究部会会場参加者皆様の投票により、獲得票の多い順に優秀賞（1名）、奨励賞（2名）を決定します。なお、同点の場合は、運営委員長、運営委員、座長による協議により決定します。

※審査結果投票ページはQRコードでアクセスしてください。別紙「審査結果投票の方法」参照。
 ※発表時間（15分間）が17分00秒を超過した場合、または発表時間が13分00秒に満たない場合には、運営委員長の判断で会場内合計点から5点を減点します。